

学生の声に対する感想や意見をお寄せください。紙面に掲載する場合があります。〒960-8602 福島民報社地域交流部。アクセスは024(531)4117、メールはchiki@fukushima-minpo.co.jp(住所電話番号を明記してください)

関本先生 この10年間で「子どもの貧困」が社会問題になってきたけれど、みんなにとって貧困とは、どんなイメージだろう。

三品 これまでは食べ物がない、着る服がないといった目に見える状態を指していた。今は、スマホは持つことができても、その他の物は買えないなど、見えない貧困が出てきている。時代とともに貧困の捉え方が変わった。

関本先生 目に見える貧困というのは絶対的貧困と呼ばれるもので、例えば飢えで苦しむことなどが挙げられる。今、大きな問題になっているのは見えない貧困で、相対的貧困といわれる。どのようなケースがあるだろうか。

石井 部活などで使う道具が買えず、子どもたちが本当にやりたいことができないような環境かな。

大槻 裕福な人は、どこでも好きな所に出掛けることができる。

鞠橋 不自由なく、いろいろな遊びができる子を見ても、格差を感じる。

早川 年1回は家族旅行に行くなど、ありふれたことができないというケースもある。それに気付いていない子もいると思う。

関本先生 ちょっとしたきっかけで気が付いても、「うちのうち、よそはよそ」とポジティブに考えられるならいいけど。

大山 親のことを考えると、自分から「やりたい」とは言えない子どももいると思う。

鈴木 進路のためにアルバイトを掛け持ちすることもある。

子どもの貧困

地域で見守る意識を



短期大学部保育学科

写真右から鈴木春菜さん、石井舞さん、砥石佳奈さん、堀合祐李花さん、鞠橋華

佳(うずらはし・はるか)さん、飛嶋里緒さん、早川結さん、三品麻里子さん、大山美咲さん、大槻トモミさん、萩野愛梨さん、関本仁講師

砥石 お金がないことを知られないように隠してしまうと、周りも気付かなくて対処できない。

関本先生 貧しいことに対する恥ずかしさが出てしまう。さまざまな支援・援助の制度があるのに、周りに知られたくないから申請をしない。どうしてもならない思いが子どもに対する虐待につながってしまうこともある。

萩野 親の帰りが遅く、コミュニケーションが少ない家庭がある。

関本先生 子どもが一人で食事をする「孤食」になっている家庭も多い。楽しく食事ができる場所をつくろうと、最近は「こども食堂」が増えてきた。

飛嶋 目に見えない貧困の問題に気付けるような保育者になりたい。地域の人との関わりを増やせば、困っている子どもに気付きやすくなると思う。

関本先生 そうだね。まずは子どもたちのSOSのサインを見つけられるようになることが必要。対症療法ではあるけど、必要な支援を受けられるようにしなければならない。子どもたちが安心して暮らせるような社会にする意識を地域で高めることが大切だね。

＝次回は8月第4週に掲載予定